
Blue sky～今月のお代官さま 2008

April～Let's begin!

桜の季節。

一番好きな場所は鴨川。桜吹雪の中、学生をいっぱい詰め込んで川端通りを走る京都バス。

高山彦九郎は、いまだ土下座しているかな・・・？

三条京阪の回数券おばさんは、バス待ちの人に声をかけているかな・・・？

河原町のジュリーは冬を越せたのかな・・・？

なんて、学生時代を懐かしく思い出します。

四月は何か新しい事を始める時期ですから、

“Let's Begin!”～なんて挨拶が最適かも知れませんね。

二島も新年度で社会人のチーム編成、事業(と言っても二島杯と合宿ですが)なども考えなきゃなりませんね。民宿破壊のメタボリック娘や、山盛りごはんのおかわりを続けるあぶさんは、新入社員となり、お代官様も、英会話・バドミントン・テニスの三つのサークルから成る青年協会全体の会長に就任しました。

入学、入社、入隊なんてのもあるかも知れませんが、人事異動や定年退職で環境の変わる人も含めて、この明るい空の下、共に頑張っていこう～なんて願いを込めて、応援歌を捧げます！



コバルトブルーの 空の下 流れる雲に 望みを乗せ
若き血潮の 燃ゆる時 歌え若人 意気高らか

夜空に輝く サギタリウスと 流れる星に 明日を託し
若き血潮の 燃ゆる時 打ち振れ若人 聖者の剣

平成20年4月4日記

May～Bulldog

「ボクから逃げようたってダメさ！逃げれば逃げるほどボクに近づいてくる！だって、地球は丸いんだもん！」

なんて言葉を捧げたらどう思うでしょ？

素敵な口説き文句..それともストーカーみたい？

出典は、時代の寵児、元祖ジャニーズでもある人気グループ「フォーリーブス」のヒット曲の名セリフ

なのですよ。

昔はストーカーなんて言葉、ありませんでした。“stalk”で「獲物に忍び寄る」ゆえに、忍び寄る人って感じで英語を知っていたらなんとなく、わかりますよね。



けど、最近の若い人の言葉は困ったもので、おいしく食事をいただいて『ごちそうさま！上手に調理してくれてありがとう！』

なんて声掛けて

「ヤバかったでしょ？」

なんて返事が帰ってきたら

『何を入れたんや！毒でも盛ったんか～！』

と疑いますよね。中国から輸入した餃子とか、船場の老舗料亭の事件が話題になっている今日この頃、「ヤバかったでしょ？」は、ヤバいんじゃないですか？

ちなみに、「ヤバい」は「すごく美味しい」って意味で使っているらしいのですが、あまりいただけませんね。



(金剛山にて山シヤクヤク)



(ミヤマハコベ)

また、最近流行りの“KY”・・・

これって「空気読めん！」って意味だそうですけど、土木建築業界では、KYすなわち「危険予知」というのが常識で、安全第一の工事現場の日課でもある朝礼の最後は、本日のKYで「右ヨシ！左ヨシ！」などを皆で唱えます。

若者の間でどれだけ浸透しているか知りませんが、日本の就業人口の3割が、土木建築にかかわる現状で、

「オジサンKY～！」

なんて言われたら『手元、足元ヨシ！今日も一日、ご安全に！』

などと答える人がいるかも知れませんね。ほんと、正しい日本語を使わなきゃ「ニッチもサッチもどうにもブルドッグ！」ですよ。



(カタクリ)

平成20年5月16日記

June～Why?

なんでだろ～う♪なんでだろ～う♪なんでだ、なんでだろ～う♪

テツandtモ・・・こんな忘れ去られた芸人の忘れ去られたネタが飛び出したのなんでだろ～う？・・・じゃなくて、毎週土曜日の二島の夜の練習に参加者が集まらないのなんでだろ～う？



屋根の高さや後方のスペースも確保できた3面のコート。しかも駐車場完備の理想的な体育館なのに、今年になってからは閑古鳥。

忘れもしない3月末の練習会・・・参加人数2名。お代官様夫婦で鍵を開けてコートを立てて、基礎打ちして、スマッシュ練習して・・・誰も来ないので、左基礎打ちまで終えて、時間は20時。この日はあきらめて帰りましたが、その日を最低として、以降も参加人数は5～6人。

運営が悪いのか、方角、曜日、時間、それともゴリの顔が悪いのか？

二島杯でコートが滑ったから？それともお代官様のギャグが滑ったから？

ホント、困った困ったこまどり姉妹～！滑りました？

しまったしまった島倉千代子～！

どんなクラブにも浮き沈みがあるのは当然のことだと思っていますが、周辺都市の強豪ばかり30名ほど集まってなかなかコートに入れなかった最盛期も困りものでしたが、インターバルなしでコートに入り続けるのも大変なので、時間に余裕のある人は土曜の夜18時30分に二島小学校にご来場下さい。

そして、程好い人の入りをキープできる知恵をお貸し下さい。

こちらは、継続は力で、いつもと変わらず確実に体育館の申請をして、同じ時間に鍵を開け続けて、「土曜の夜はパラダイス」ってなキャッチフレーズを忘れず、楽しく羽根を打てる環境を守り続けるつもりですから、来てくれなきゃ・・・

「ダミよダミよダメなのよ！」

平成20年6月17日記

July～Scramble・・・

お楽しみの二島合宿が迫ってきましたね！

今年の大会は「321(スリーツーワン)スクランブル～キミが欲しい！」という企画。基本は3人で21点ゲームを戦う団体戦。11点でメンバーチェンジして勝敗を決するのは昨年と同じですが、対戦終了後に相手チームとメンバーの一人を交換します。

すなわち、現在の試合と次の試合でチーム編成が変わるというスクランブル・・・
「わかるかな？」

しかしながら、大会・・・豪華な賞品も懸かっていますので勝ちたいと思うのは当然ですから、敗者チームキャプテンは、勝者チームの誰かに対して
「キミが欲しい～！」と宣言ができます。

勝者チームキャプテンはそれに応じ、見合う実力の人に対して
「キミが欲しい～！」と交渉してトレードを成立させ次の試合に望みます。

ただしゴリからそんな事言われて「ブサイクお断り！」とか「食われる～！」なんて思っても言わないで下さいね・・・あくまで、合宿企画ですから！

また今回は、勝ち数の多い個人で順位を決定します。試合は団体戦でありながら、賞品は個人に捧げるという人間関係にヒビが入りそうな図式。

決して「おまえのせいじゃ～！」などと言わないように。

さてさて、今年も神鍋！

門真市駅に集合してパオパオで昼食、民宿到着後、着替えて体育館で練習、温泉施設「ゆとろぎ」で汗を流して、大人のディナータイムの後、星降る高原を散歩。ミルキーウェイ(天の川)を見に行きましょう。

で、翌日はキミが欲しい～！

ではでは皆様、当日をお楽しみに！ 申込がまだの人は、お代官様までお急ぎ下さい！



平成20年6月27日記

August～Drop by

「小腹が空いた、ちょこっと食べよ・・・小腹が出た、ちょこっとスポーツを！」

そんな感覚で身体を動かしませんか？

天才・越後屋と鬼才・悪代官によるバドミントンのちょこっと講習会。

平成20年8月8・15・22日門真市民プラザにて開催と広報かどま8月1日号で参加者募集しました。



昨年は問合せも多く大盛況で終わり、青年協会バドミントン部復活の原動力となったイベントでしたが、今年はどうなる事やら。

初日は8月8日、数日前ゲリラ豪雨で京阪沿線がパニックになり、甲子園は高校野球記念大会で盛り上がっているし、8時8分からは、世紀のイベント『北京オリンピック』の開会式。入場行進で旗を持つ卓球の愛ちゃんから、鳥の巣の聖火台への点火シーンまでお茶の間で視聴しておかなきゃ職場や近所での話題に付いていけなくなりますよね。

おまけに問合せの電話もたった1件で、どう考えても人が集まるわけがないと高を括っていたのですが、終わってみれば大人14名・子供3名の大盛況。スタッフも揃って、久々に市民プラザ体育館が活気に満ちあふれました。



主催者挨拶から始まり、4つの基本ショットとして、クリア・ドロップ・ドライブ・ヘアピンを見せ、模範試合、手首の使い方、越後屋とエースによる見本基礎打ちに個別レッスンと予定していた工程をすべて実行しました。

…って「集合時間に遅れて来るし、挨拶も考えて無かったやろ！」などと突っ込まない。

いずれにせよ、オリンピック競技としてのバドミントンの底辺を広げて、より多くの競技者人口を増やし、羽根を打つ喜びを広げて行くことが、私たちの使命だと思っていますので、次回・次々回の講習会だけでなく、いつもの練習会にもたくさんの「バド好き」が集まってくれることを祈念する8月の夏でした。

平成20年8月9日記

September～Festival

いよいよ、第15回二島杯の開催です。今回の募集120名に対し、9月22日のチーム編成抽選寸前の状態で、申込者82名と苦戦していますが、今回のテーマはフェスティバルですから、多けりや多いなり、少なけりや少ないなりに楽しく一日皆さんと羽根を打てることを考えたいと思っています。

当日のお代官様は、手馴れた作業の二島スタッフとキャプテンに指示を出すことがお仕事ですから、口だけ動けば問題ありません。お代官様の主たるお仕事は、この準備段階で、チーム編成を考えたり、新しいルールを構築したり、副賞的な賞品を考えたり、皆さんをあとと驚かすサプライズを考えたりします。



今回は、サプライズとしてオグシオグッズを登場させました。ほとんどの人が予想していたと思いますが、「小倉屋の潮の香り」として、昆布の小倉屋で手配した生ワカメを出しました。また、ドタキャン対策としてデモクラシーなるルールを作ったり、コンプライアンス重視の面から指示書を出したりと、この時期に出てくる苦し紛れの発想の積み重ねで現在に至っています。

今回は、門真市民プラザ開催で、6コート使える関係で進行を考えた結果、7名編成の12チームに決定しました。13回大会では、10チームにしたところ勝敗が均衡して、順位決定に青息吐息。8チームではコート使用が難しく。ただ12チームで編成するとキャプテンの指名、また7名1組では、4ダブルスになるので勝敗が明らかにならないという欠点が出てきます。

今回は、二島クラブ所属の全員をキャプテンに据えて、勝ち点制度を導入しようと思っています。まあ、この原稿を書いた後に何かひらめいてルール変更するかも知れませんが、この時間こそがお代官様の至福の瞬間かも知れませんね。

第15回二島杯、テーマは「フェスティバル」・・・皆さんが、楽しもうって気持ちで大会に臨めば、自然と楽しい大会になると思いますので、キャプテン・スタッフ・参加の皆さん、ご協力よろしくお願いたします。



October～Rugby

10月になれば、日本のラグビーシーズンがスタートします。

今年の京都産業大学は最悪。開幕戦は、パワフルなトンガ人の新入生が入った天理大学に敗戦。続いて、開幕戦で約50年振りに同志社大学を破ってノリに乗っている関西学院大学に完敗。これでは、全国大会どころか、入れ替え戦に出場かもしれません。

今シーズンは、どうしたら良いのか？産大復活への望みを込めて、好きなラグビーチームについて語ります。

神戸製鋼の大畑がキャプテンだった頃の京都産業大学。国立競技場での関東学院大学との準決勝戦。決定的なボックスを持ちながらも、展開せずにスクラムにこだわり敗戦。お代官様は、こんなチームが大好きで、攻撃パターンがハイパントだけという大阪府警。観客席も攻撃するときの声援は「ハイパン！ハイパン！」相手チームに不貞行為があったら「逮捕するぞ～！」なんてのが定番です。小さな体でひたむきなタックルを続けて守りに徹する日新製鋼。黄色で三角のビニール製応援フラッグは、横断歩道を渡る気分させます。元フィジー代表のセレヴィ次第の三菱自工京都。「ホンゴ、本郷！」と言ってパスを流す姿が目につかびます。そんなこんなで、トップリーグ発足前の社会人チームに魅せられました。

昨年高校ラグビーでは、東海大仰星を倒したスクラムとフォワード力の尾道。チームワークという面で素晴らしかったのは、長崎北陽台。地方大会でも大阪朝鮮に惜しくも敗れた都島工業。小さな身体のボックスが重量フォワードを倒す姿は、感動ものでした。

高校、大学、社会人・トップリーグからスーパー14に国代表・・・やっぱりグラウンドに行って現場で観戦して、自分の好きなチームを発見するのが最高ですね。そんなラグビーファンから、今シーズン（平成20年）、トップリーグに復活して台風の目となっているチームの約10年前。某マガジンに掲載された観戦記「今年も近鉄が面白い」をここに再録してみます。（画像は現在のものです）



昨シーズン、サントリーを下してまさかのベスト8、古豪近鉄の復活でラグビーシーンが大いに盛り上がりました。昨年に引き続き、今年も近鉄が面白い。なんと言っても近鉄が面白い。そんな理由を5点ほど記してみます。

1、今年は、会社を上げてチームをバックアップしている。

大会開催日には東花園駅に準急を停車させ、「頑張れ近鉄ライナーズ」の写真入りポスターまで作成し、駅前の近商ストア前に立っているカーネルサンダースまでが赤紺のユニフォームを着て近鉄応援に一役かっている。

2、キャプテン前田の動きから目が離せない。

小さな身体の前田が、ある時は大胆に、またある時はチョロチョロと、FWを使い、BKを指示し七色の戦法を企てる。

3、ラヤシのフィジアンマジックが相手チームを悩ませる。

今シーズンからFBに定着したラヤシが、右へ左へと味方さえも欺く。時にはSOの位置につき華麗なステップで走り回り、突破口となりフィニッシャーとしての役割も果たす。

4、観客席の応援が、熱烈。

後方からモロ河内弁の女性の声援。ノックオンした選手に「飯泉あんたショボいで、去年もエエココで同じミスしてたやろ！」

WTBが走り出すと「イケー！何でもええから持ってけー！」トライを決めたら狂喜乱舞。前方を見ると、四角い顔でいかにも頑固な職人風の親父が、満面の笑顔を見せ突如雄弁になる。花園ラグビー場のスタンドは、チームを愛する人の(個性豊かな)温かさで満ち溢れている。

5、とにかく・・・かわいい。

ヤマハとの開幕戦で引き分け、ワールドに競り勝ち、神戸製鋼戦、完全にこっちのペースで4点差まで追いつきながらも、大畑にとどめを刺された。翌週は、トヨタ相手に大敗。期待させては裏切る。我々関西人が愛する阪神タイガースと一緒にやまへんか。負けても、負けても、かわいくて、つい応援したくなります。

全国大会に向けての近鉄ライナーズ、1試合でも多く私たちを楽しませて下さい。

平成20年10月19日記

November ~Restore

九月の火災から二ヶ月、ガット張りの店「ネットイン」が復活しました。



場所は交野市藤が尾4丁目1-8、前の店から北へ、郵便局のすぐ側です。



「悪どいプレーにきわどい下ネタ、痛い所に手の届くサービス」をモットーとする越後屋が、新たな場所で今まで以上に売上アップできることを祈念すると共に、皆様方のご支援をお願いいたします。



さて、復活を考えるべきは、越後屋だけでなく、最近集まりが悪くなった二島夜の練習会。地道に支えてくれた皆さんに復活の「悪代官vs越後屋Tシャツ」を安価で購入できる事にします。(個人負担1000円で残額は会費から補助)

色は二島の発展を願ってのショッキングピンク、この10月・11月の夜の練習に参加してくれて、これからも月に一度は参加するつもりの人を対象とします。詳しくは現地・・・すなわちいつもの練習でお知らせします！

平成20年11月13日記

December ~Come on !

12月と聞くだけで忙しく感じます。街は歳末セールの呼び込みの声、クリスマスのイルミネーションの輝き、忘年会帰りの赤ら顔の団体。

テレビでも今年の重大ニュースが紹介され、ノーベル賞を手にして一躍アイドルになった京都産業大学の益川教授のオチャメな笑顔や、北京オリンピックで金メダルを手にした水泳の北島選手の「超キモチイイ」コメントがよみがえる。

二島も今年最後のチームとしての試合を終え、新年に備えます。

また、毎年この時期になると練習に参加する人数が減りますが、今年一年を振り返ると土曜の夜の練習の参加者が減って淋しくなってるのは事実ですが、きっと、メンバーの皆さんが外に出て土曜の夜の二島へ参加者募集の営業活動に励んでくれていることなのでしょう。営業活動は、華やかでカッコイイかも知れませんが、ホームを守る事務的な部門があってこそ機能するものですね。

そんなホームを守ってくれた皆さんへのクリスマスプレゼントとして作成した「悪代官VS越後屋Tシャツ」のピンクバージョンが完成しましたので、ここに紹介します。モデルが良い悪いは別として、たまには営業活動の成果を見せに仲間を連れて帰ってきて下さい。また、この写真を見て参加したくなった皆さんも一度ご来場下さい。



土曜の夜はパラダイス。そんな二島を継続していますので、うまい下手は関係なく、羽根を打つ喜びを味わいに来て下さいね。

平成20年12月17日記

January ～New Year～

新年おめでとうございます！

A HAPPY NEW YEAR！

日々是好日、新年更快活！

なんて挨拶が飛び交う1月。新しい年を迎えて願をかけたり、目標や誓いを立てたりしましたか？
暦という宇宙がくれたせつかくのきっかけですから、何か新しい事始めましょう。

お代官様は「清く明るく美しく～！」・・・『って小泉今日子かあ！』なんてツッコミが、わからない人の多いかもですね。

二島クラブは、今年も年二回の大会と神鍋合宿を開催。

いつもの練習も「土曜の夜はパラダイス」

継続は力で楽しく羽根を打つ喜びを味わっていきたいと思っています。



さてさて、まずは3月8日門真市民プラザにて、第16回二島杯を開催します。

テーマはリズム。詳細は大会案内のページへ。

「それでは、二島クラブの繁栄と・・・バド好きの皆様の健勝を祈念しまして、お手を拝借！」

「打ちまひょ！」

『パンパン』

「もひとつせい！」

『パンパン』

「祝うて三度！」

『パパン、パン』

本年もよろしくお願いいたします！

平成21年1月9日記

February ～Blue

今年度の「ふたしまクラブ」としての社会人大会、無事終了しました。

一年を通じて、女子部は前期・後期共に7部準優勝。男子部Aは前期20部準優勝、後期優勝で昇格を確実にしました。Bは前期22部で4位、後期は最終日人数不足オープンにより最下位で降格。

悲喜交々とでも言いましょうか、勝ち続けた女子部も出る杭は打たれ、常勝男子Aもシングルの帝王・越後屋が地元事情により移籍、最年少の元気モノで手が早いことが自慢のあぶさんも上昇志向により原点回帰、最初にバドミントンを教えてもらった師匠の元に帰ります。Bも最低人数で戦っていた頃から、勝敗より全員出席が自慢だっただけにブルーな気分・・・



社会人である限り誰にでも、公私の選択で苦渋の思いをした経験があるでしょう。そして、大人である個人が集まる限り、それぞれの家庭・地域・職場等の社会集団があつて然るべきで、価値観の違いもあつて、皆が一堂に会し同じ方向を目指していくなんてのは本当に難しい事ですね。

チームを維持する中でいろんな事がありますが、ここが踏ん張り時、チームの皆さんの二島スピリットさえあれば、災い転じて福となると信じています。

ブルーの意味は辞書で調べると「陰気な・憂鬱な・沈んだ」なんてマイナス思考の言葉が並びますが、ブルーは、雲ひとつない美しい空や、きらきら輝く静かな海を示す自然の色でもあります。

そして京都産業大学のスクールカラーでもありますから、お代官様にとってはラッキーカラーになりますね。さてさて、青い空・青い海に触れて元気出すとしますか！



Oh! Blue sky Blue sky この空の明るさよ♪
なぜ僕のこの悲しみ 映してはくれない♪
めぐり逢いは不思議なもの だから大事にして♪
二人の心の絆を しっかり結んで欲しいと♪
いったた君だったのに♪

平成21年2月11日記

March ～Let's Begin !

年度の考え方から、やっぱ一年を振り返ります。

二島・社会人チームは、出る杭は打たれ、日頃の練習も参加者が減り、合宿もマンネリ化して、な

なんとなくメンバーの気持ちがバラバラになった雰囲気が漂う日々が続きましたが、先日の二島杯は、そんな憂鬱を吹き飛ばして大爆発、スタッフ力の勝利で最高の大会を開催できました。お代官様、会長、スタッフ、そしてその場所に居る全ての参加者の皆さんが「面白い事したい！楽しみたい！」という気持ちで、同じ方向を向いていたからこそできあがった至福の空間です。ほんと、こんな二島を維持し続けたいですね。



また、青年協会も元気を維持。初心者を集めた講習会の「ちょこっとバドミントン」で会員増。二島杯では、大会支援だけでなく、門真市民ミュージカルに向けての募金活動も行い、協会所属の皆さんの活躍が光りました。

おまけに、初心者や子供主体の大会「ふたば杯」を共催し、競技人口の裾野を広げる事に一役買いました。参加者総数32名。組分け帽子によるチーム編成で、各チームそれぞれでキャプテンとチーム名を決めて、4チーム総当たりの結果・・・「マゲツサーンス」なるチームが優勝しました。



協会全体としては、ふるさと門真祭の中止でテニス・バドミントンと垣根を越えて協力しあう機会が失われ、組織としての弱体化が心配されます。テニスはマイロードで、確実な運営を続けています。英会話は、講師も見つからず会員の行方も知れずと淋しい状況です。

さて、それならば新しいクラブを招聘し組織強化を計る事を考えますが、助成金が廃止された現在、メリットの無いものには協力いただけるかどうか疑問です。

ならば、「新しいクラブを作ってしまえ～！」という事で、地域との交流を主たる目的とし、旅を通じて文化を発見するというサークルを立ち上げるつもりです。

大阪には四国出身者が多いという理由から交流の相手先は四国四県。高松・鳴門・宇和島・中村等々素敵な風景に素敵な人達が目に浮かびますね。文化クラブであれば当然、講師の先生が必要となります。門真で唯一、四国観光協会が認定する「四国の達人」の資格を持つお代官様がこの大役を勤める事にいたします。



という事で、四国旅クラブ発足！
会員、企画、テーマをまとめて大募集！



達人からは、「オススメの徳島」という事で、太平洋に浮かぶ出羽島(てばじま)という場所を紹介し
ます。

日和佐の南、牟岐港から小船に揺られること15分。原風景が残る周囲3km程度で一時間もあれば一周できる素朴な小島。人口は97人。黒潮の影響で徳島県内では最も暖かく、内陸では見られない亜熱帯植物が繁栄。シラタマモなる天然記念植物が自生する大池と、蔀帳(みせ)なる縁台が
配備された家並み程度しか観光スポットもなく、白砂の海岸もなし、コンビニも民宿も食堂もありません。



けれど、海を眺め何もかも忘れて過ごすには最高のシチュエーションです。運が良ければ小船に群
がるイルカに会えるかも。

出羽島こそ、何にもしないという最高の贅沢を味わえる場所で、達人リコメンドの空間です。
さてさて、新年度に向けて”Let’s begin！”とにかく何かを始めましょう！



平成21年3月20日記

[ハーモニー～今月のお代官さま
2009](#)

Back

[戻る](#)
